

記者発表 (発表・資料配布)				
月/日(曜日)	担当部署名	電話番号 (ダイヤル)	発表者名 (担当名)	その他 配布先
9/25(月) 10:00	東播磨県民局 加古川土木事務所 港湾課	(079) 421-1101 内線 539 (079) 421-9205	加古川土木事務所長 黒坂 公晶 (港湾課長 関 正造)	—



「高砂港向島突堤」の選奨土木遺産認定について

このたび、令和5年9月22日に開催された土木学会理事会にて、「高砂港向島突堤」が選奨土木遺産に認定されましたので、お知らせします。(東播磨県民局HPでもアップ)

1 所在地

(東播磨港高砂地区)
高砂市高砂町向島町・相生町 (別紙参照)

2 施設概要

- (1)種 別 東防波堤 (一文字波止) : L=95m+75m=170m、西防波堤 : L=25m
- (2)構 造 石積み護岸他
- (3)竣工年 1866年(慶応2年)完成 (着工: 1808年(文化5年))
 [1961~1964年(昭和36~39年)修繕工事
 1961~1967年(昭和36~42年)埋立工事時に一部撤去]
- (4)管理者 兵庫県 (東播磨県民局加古川土木事務所)

3 認定理由

- ①工楽松右衛門*が改修した当時 (1800年代) の姿を偲ばせる石積みが部分的に残り、高砂港の改修と、そこに用いられた土木技術の歴史を現代に伝える貴重な構造物である。
(※ 丈夫な帆布「松右衛門帆」を発明し、築港工事で日本の海運を支えた高砂市生まれの人物)
- ②大型船が出入りできる港を整備したことで物流量が増加し、高砂の経済発展に寄与した功績は非常に大きく、現在も播磨臨海工業地域の一翼を担っている。

4 高砂港の改修経緯等

- ・初代工楽松右衛門が、長年にわたる土砂の堆積で、浅くなり船舶の碇泊に支障をきたす状況になっていた高砂港の改修工事に着工 (1808年(文化5年))。
- ・工楽家はその後、三代にわたって55年の歳月をかけ、高い土木技術をもって高砂港の改修を行い、近世後期以降の新田開発や港湾整備などのまちづくりに活かしていた。
- ・当該港湾は、1964年(昭和39年)重要港湾「東播磨港」(高砂地区)に指定。

5 特記事項

- ・初代工楽松右衛門は、日本列島各地の埠頭、船たて場(ドック)等の造成および港・河川の浚渫工事を安全に推進し、省力化を図るため、多くの特殊作業船を開発・駆使した。